

広報・教育部門

応募事例名

大学生が取り組む下水道広報研究

応募団体名) 九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科 佐藤研究室

応募事例の概要

- 大学生が下水道広報を研究！広報活動に新たな視点を提示
- マンホール蓋の視認率やカードの広報効果などを調査、分析

応募事例の内容 **実証的な広報活動へ！大学生が研究で下支え**



視認率調査



カード調査



蓋・施設調査



サミット登壇



研究展示会



調査報告書

PRポイント

日本初！？マンホール蓋の視認率を調査し、2022年度「第10回マンホールサミットin所沢」に大学生として初登壇。GKP広報大賞準グランプリ。後輩が研究を引き継ぎ、**実証的な広報活動の展開に向けて研究で下支え**するべく、2023年度は5名が研究を実施。下水道すぐろくの開発やマンホールカードの**広報効果**などを調査した。**研究展示会での発表**や毎年**調査報告書を発行**。メディアからも注目を集める。2024年度もさらに後輩が研究継続中。

取組みに関するエピソード

大学生の発案で研究がスタート。教員も驚く行動力のもと研究活動が進み、想像を超え多くの方々にご協力、認知いただきました。コロナ禍で制限される学生生活を送った彼らが、サミットの舞台上で600名超を前に発表する姿は忘れられません。また思いのほかこの研究活動に、大学生や高校生が興味を持ってくれます。下水道広報で若年層へのPRは大きな課題ですが、研究を通して貢献していきたいと思います。



研究に取り組んできた大学生たち(一部)